

## 【英語】 <中学校 第2学年>

### 1 結果のポイント

- 「理解の能力の【聞くこと】」については、自然な口調で話された会話や英文を聞いて、会話の結論や必要な情報などの概要・要点を聞き取る力をみる問題の正答率がほぼ90%を上回っており、力が十分身に付いている。他方、問いかけから相手の意向を正しく理解して、適切に応答する力は、十分身に付いているとはいえない。
- 「理解の能力の【読むこと】」については、いくつかの情報を整理して正しく理解したり、文章全体のあらすじや特に中心となっている事柄などを読み取ったりする力をみる問題の正答率がすべて70%を上回っており、おおむね力が身に付いている。他方、会話の流れを理解して、状況に応じて適切な応答を選択したり会話を完成したりする力は、十分身に付いているとは言えない。
- 「表現の能力の【書くこと】」については、英文の構造を理解して正しい語順で書く力をみる問題は正答率が60%を上回っているものがみられ、昨年度に比べ改善傾向にある。他方、伝えたい内容が正しく伝わるように適切な表現を用いて書く力や、一つの話題について読み手を意識しながらまとまりのある英文を書く力は、今後も継続的に充実を図る必要がある。

### 2 結果の分析

#### (1) 問いかけに対して適切に応答する力をみる問題の例

<問題> **1** (テープ問題)

次のように英語で話しかけられたとき、どのように答えますか。応答として最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。話しかけは2回くり返して言います。

(放送文) 1 We're going to have a party tomorrow. Do you want to come?

ア Yes, I did.      イ Sure.      ウ Sorry, you can't.      エ No, I didn't.

<結果> **1** の1 正答率 59.4%

<分析>

この問題は、英語で問いかけられている内容を正しく理解し、それに対して適切に応答する力をみるものである。**1**の1は、正答率が60%を下回っており、力が十分に身に付いているとはいえないが、昨年度の類似問題と比較すると、7%ほど正答率が高くなっており、改善傾向がみられる。誤答の中では、Yes, I did.を選択したものが多く、Do you...?に対して、聞き手の意向よりも、Yes / No といった言語形式通りの応答の仕方を理解することが最優先されている。また**1**の3は、Did you.....?の問いかけに回答するという点では**1**の1に似ているが、正答率は79%と高い。これは、Yes / No で始まる選択肢がなかったからと考えると、応答に関して言語形式が優先されていることが、ここでもうかがえる。この力については向上しつつあるので、さらに伸ばしていくための授業改善を継続的に行いたい。

#### (2) くわしい内容を読み取る力をみる問題

<問題> **4**

次の1～3の問いについて、それぞれの英文を読み、答えとして適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。

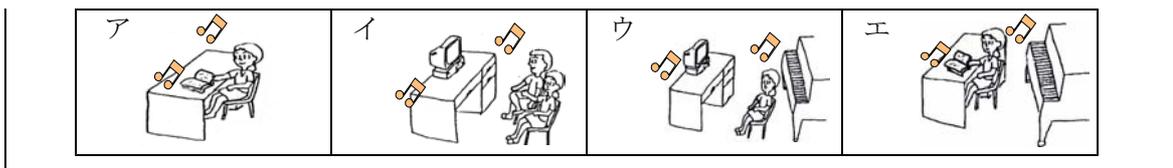
2 早紀 (Saki) は先週の日曜日どのように過ごしましたか。

Jim : What did you do last Sunday, Saki?

Saki : I enjoyed music in my room.

Jim : Did you play the piano?

Saki : No. I listened to music and watched TV with my brother. The piano is in the other room.



<結果> 4 の 2 正答率 87.9% (正答…イ)

<分析>

この問題は、ある程度まとまりのある対話文を読んで、くわしい内容を正しく読み取る力をみるものである。示された絵を手がかりに、watched TV, with my brother, The piano is in the other room.を正しく読み取り、ピアノのない部屋で兄(弟)と一緒にテレビを見ている「イ」を選ぶことができたと考えられる。同じ4の1と3についても、それぞれ正答率が90%、80%を上回っていることや、昨年度の類似問題においても正答率が高かったことから、この力は確実に定着していると考えられる。授業の中で、読み取りの視点を与え、絵を手がかりに教科書等の英文を丁寧に読み進めさせている指導の成果である。

また、【読むこと】と【聞くこと】の違いはあるが、くわしい内容を理解する力という点では、2は本問と関連している。2は正答率が85%を超えるものも複数あり、絵などを手がかりにしてくわしい内容を正確に理解する力は【聞くこと】に関してもよく身に付いているといえる。

### (3) まとまりのある英文を書く力をみる問題の例

<問題> 8

あなたは初めて日本を訪れたALTの先生から、日本で旅行をするおすすめの場所や名所について紹介するように頼まれています。紹介したい場所を一か所選び、その場所のよさが伝わるように、3文以上の英文で原稿を書きなさい。ただし、最初の文はI'm going to talk about ...を書き出しとして始めなさい。なお、I'm going to talk about ...で始まる英文も1文として数えます。

<結果> 8 正答率 36.5%

<分析>

この問題は、身近な話題について、書くべき内容を自分で考え、まとまりのある英文を書くことができる力をみるものである。誤答の中には、I'm going to talk about Tokyo.の後、In Tokyo.....が繰り返され、東京についての説明の羅列となっていて、文としてのまとまりやつながりがなかったり、英文に深まりがなく、紹介している場所のよさが十分に伝わらなかったりといったものがある。どんな内容のことを、どんな順序で書くのかを自分で考えて書く力が十分に身に付いていない。また、無回答も多く見られることから、今後は、書くことの楽しさを味わわせながら、構想立ててまとまりのある英文を書く学習を計画的に行いたい。

### (4) 内容が伝わるように正しく書く力をみる問題の例

<問題> 9

友だちの久美を(Kumi)を英語で紹介するために、下のメモを作成しました。メモに書かれている三つの内容がそれぞれ正しく表される英文を解答用紙に書き、紹介文を完成させなさい。

メモ

◇ 関係：同じクラスの親友      1 趣味：ピアノをひくこと  
 2 経験：去年、ヨーロッパ(Europe)へ行った。      3 将来の夢：音楽家(musician)になること

<結果> 9 の 1 正答率 45.7%      9 の 2 正答率 50.1%      9 の 3 正答率 42.9%

<分析>

この問題は、表現したい内容が読み手に正しく伝わるように書くことができる力をみる問題である。9の正答率は、3問中2問が50%を下回っており、She will musician.といった動詞が欠落している英文や、She is went to Europe last year.といったbe動詞と一般動詞が混在している英文が誤答の中に多くみられた。内容を正しく伝えるためには時制や語順、動詞の使い方等が大切

であることをきちんと理解させるとともに、具体的な場面や状況の中で書く指導を、繰り返し行っていききたい。

### 3 分析を踏まえた指導の改善

#### (1) 指導計画の工夫改善

- ・【聞くこと】【話すこと】の言語活動に重点をおいた指導計画のもと、音声重視の指導が日頃から十分に行われており、前年度に引き続き、【聞くこと】についての学習状況は良好である。今後も、【聞くこと】や【話すこと】の音声によるコミュニケーション能力の育成に重点を置いた指導を継続していくが、【読むこと】と【書くこと】についても、一層計画的、継続的に指導する必要がある。今回の結果から考え、特に、【書くこと】についての言語活動の「ウ 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」を扱う単元が系統的、発展的に位置付けられた指導計画の工夫改善をしていきたい。
- ・単学年でなく3年間を見通して指導計画を作成することで、各領域において系統的で発展性のある段階的な指導が可能となる。また、3年間を見通すにあたっては、領域別の各学年の目標を明確にし、どの段階でどこまで力を付けさせるのかを明らかにしていくことが大切である。特に【書くこと】については、第1学年と第2学年で大きな差がみられたことを踏まえ、各学年の目標から導き出した学期ごとの目指す姿を明確にもち、段階的に力が身に付くような指導計画を工夫改善していく必要がある。
- ・各単元で扱う言語材料を整理し、それが繰り返し指導できるような指導計画を工夫したり、第1学年で身に付けた力が活用できるような言語活動を指導計画に位置付けたりすることで、段階的な指導を行えるようにしたい。

#### (2) 指導方法の工夫改善

- ・【聞くこと】について、相手の意向を汲んで、言語形式によらない柔軟な応答ができる力がまだ十分ではない。そこで、「ウ 質問や依頼などを聞いて適切に応じること」を言語活動の中心とした授業の中で、ALTと教師が言語形式によらないやりとりをモデルとして意図的に示したり、クラスルーム・イングリッシュも含めた教師・ALTからの生徒への問いかけや生徒同士の対話活動などをより多く設定したりすることで、場面に応じた応答ができるようにしていきたい。また、授業開始直後に数分間の帯活動を位置付けている場合などは、継続的にその指導ができるチャンスととらえ、即興的な応答を繰り返し練習する場として活用したい。
- ・【書くこと】について、まとまりやつながりを意識した英文が書ける力を身に付けさせるために、トピックや伝えたいことから、何を書けばよいのか、どういう構成で書けばよいのか、文の順序はどうするのかなどについて意識できるよう指導していきたい。そのために、教科書題材等で文の構成等を十分に確認した上で書く活動を設定していくことが有効である。また、【書くこと】においてだけでなく、【話すこと】においても、まとまりやつながりを意識した活動ができるようにしていくことも大切にしていきたい。
- ・基本的な文型を確実に定着させ、正しい語順で英語を話したり書いたりすることができるようにするために、文構造を意識しながらの教科書音読も有効である。英文について、意味のまとまりごとで文に斜線を入れ音読させるなど工夫をしたい。
- ・授業の中で発話した英語を、終末で書き留めさせるなど、話す活動と連動させた書く指導を工夫して仕組んでいくことは大切である。書きまとめたものを提出させ、ていねいに朱筆を入れたり、作品として掲示したりする中で書くことの評価と指導を行い、書くことについての意欲化を図るとともに、正確に書く力の向上を求めていきたい。

#### (3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・概要や要点、あるいはくわしい内容を理解する力をさらに安定させていくために、ALTを積極的に活用し、ある程度のまとまった量の英語でも抵抗なく聞けるようにしたい。また、言語形式にとらわれず、場面に応じた適切な応答が自然にできる力を身に付けさせるためにも、ALTとの即興的なコミュニケーション活動を積極的に位置付けたい。
- ・【読むこと】に関しても、教科書題材だけではなく、いろいろな読み物教材を段階的に取り入れ、ねらいに応じて、概要や要点を読み取らせたり、くわしい内容を読み取らせる活動を工夫したい。
- ・オール・イングリッシュの授業を目指し、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする学習集団を創造する中で、相手の意向を聞き取ったり、伝えたいことの概要を聞き取ったり、さらにそれに対して適切に応答したりする力をより確実に身に付けさせていきたい。